

令和7年度第4回浦安市行政改革推進委員会 会議録

○日 時／令和7年12月2日（火） 10:00 ～ 11:20
○場 所／市役所4階 S5会議室
○出席者／池田委員、李委員、沼尾委員、平野委員、青山委員、岩田委員、杉田委員、 染谷委員
○事務局／大塚総務部長、土久総務部次長、宇田川総務課長、高橋課長補佐、 小川行政改革推進室長、圖司副主査、野口主任主事
○議 題／（1）第3次浦安市行政運営刷新計画の策定について

1 開会

事務局より、委員8名中8名の出席により過半数を超えることから、本会議が成立する旨が確認された。

2 議題

(1)第3次浦安市行政運営刷新計画の策定について

会 長：市長から本委員会に対して、第3次浦安市行政運営刷新計画に関する諮問がなされている。第3次浦安市行政運営刷新計画の策定について、前回の委員会等で皆さんからご意見が出ていたと思うので、それらを踏まえて修正点について事務局より説明をお願いします。

「第3次浦安市行政運営刷新計画(素案)」の変更点などについて、事務局より説明を行った。

委 員：名前が価値を生み、浦安市全体の魅力が広がっていくのではないかと考える。浦安市において、テーマパークという単一ポイントに依存するのではなく、浦安市の産業や観光資源などを組み合わせ、地域全体の1つの地理的ブランドと考えている。地域が連携しブランド磨きが出来れば、最後に多くの方に魅力を知っていただき、結果として収入増につながる可能性もあるのではないかと考える。

事務局：安定的で継続的な行政運営を踏まえて、歳入の確保をしていくことは大事である。特定の1つだけではなく、収入源を増やしていくうえでは、市の地場産業というか、いろいろな特産物があるので、そのあたりも活用してはどうかというようなご提案だと思う。そこで価値を上げていく、まさにこれからやろうとしている。クラウドファンディングの目標金額を2日で達成できた実績もある。様々な発信をすることによって、歳入につながるというのも期待できる。PR大使を4名の著名人をお願いしてSNSやイベントに参加して、ふるさと納税のPRを市外に向けて発信するという新たな取り組みを強化し

て、歳入確保の可能性を考えている。

委員：境川をきれいに、これはイメージ、シンボルとして一番と思っている。イメージを上げるためには環境の整備が必要だと思う。

事務局：境川は一級河川で、県の管轄。当然、河川管理者である千葉県との連携協力も必要で浚渫や川と触れ合えるような、かわまちづくりという活動を積極的に行っている団体と行政も連携しながら、イベントなどを行っている。環境は基本的なところであり、県と連携して取り組んでいかなければならない。

委員：市で取り組んでいる、適正な業務執行のところで成果目標の立て方について、件数だけでなく内容も重要ではないか。

事務局：様々なケースがあり、事務処理誤り、注意力不足、職員の重大なミス、また、例えば市だけではなく、市が委託している事業者による事務処理誤りであっても、発注者である市の責任というケースもある。個人ではなく、組織としてミスやリスクを低減させる場所である。同じ過ちを繰り返さない、また新たなリスクも出てくるので内容は重要であるが、成果目標をできるだけ定量的に示したいと考え、まずは前年度以下に抑え、件数自体を抑えるというところから成果目標を設定した。

会長：数字目標にすると越えてしまいそうだから隠してしまおうというのも出てくると思うので、注意が必要である。

事務局：実務に合わせたロールプレイング研修、チェックの仕方が本当に機能しているか、チェックになっているかというリスクを防ぐ視点で、その部署だけでなく同じような手続きがあれば共有して、組織で防いでいこうと考えている。

会長：ハラスメント研修は。初めはきちんとやるがだんだん形骸化してくる。

事務局：ハラスメントは色々と幅広く、今年度については、パワーハラスメント研修を管理職に実施した。研修講師から、所属長だけでなく各職員も認識を変えなければいけないとあり、来年度以降は研修したことを繰り返すのではなく、意識が変わったところは繰り返してではない形で毎年実施する。

委員：市民も手続きがもっと簡単にできるデジタル化という視点が大事で、それを重点事項として入れられたのかなと読める形になった。

デジタルとAIは違うので、言葉を並列で記載したほうが良いのではないかと。

また、地域力の活用と一緒に、行政が関わっているサービスはある意味市民サービスで、多様な担い手がやっているので市民サービスという言葉の方がこれからの時代にはあっていると思う。行政改革大綱を策定したときはまだ行政サービスを提供する、そこに市民・地域を活用してやっていくという行政主体で考えられて策定されたと思う。

事務局：基本方針における改革項目や5つの資源は、上位計画である大綱の流れを汲んだ。実行計画であり、計画期間の3年間に実施する取り組みは今までもあったが、今回の第3次の計画では重点事項を計画の目玉に目的別で、市民向けあるいは庁内向けという形で整理、表現した。行政はすべて市民向けに繋がるが、結果的にそれが庁内組織としても有益であることから、市民サービスの向上が外向きの、組織・事業の最

適化がどちらかという内向きの表現、それが双方でそれぞれ市民サービスが向上する、様々な取り組みを行うことで結果的に組織・事務事業等しても業務負担が図れるというような関係性である。

委員：社会環境の変化を踏まえて、こういう観点から重点事項を定めた、市民サービスの向上は具体的にはこういうことを考える、あるいは重点事項はこう整理されているという、見出しの方は必ずしも大綱と同じなくてもよいのかもしれない。考え方的な部分を引き続きながら、実行計画としてこの計画を定めるという考えもある。

委員：コミュニケーションのミスマッチだが、標準化できればいい。こういうシナリオだったらOKで、そうでなければ別のシナリオならこうする。図で表示すれば同じように理解できるのではないか。

事務局：市役所の組織の中で、個人情報をもとにたくさん扱う管理部門では色々ある。例えば発送する業務、作業をするときは宛名や数値が個人情報になる。なるべく少なくする、あとは封入封緘する作業はチェックの仕方や作業する場所を違う書類が混じらないように、複数の職員で読み合わせをするといったチェック機能があるはずなので、それを業務の手順の中に組み込んでシステム化しようという流れで来ているので、検証を通じてやっている。職員が異動して新たな職員が来ても標準化した作業にすれば間違いが少なくなる。

会長：これはぜひ続けていただきたいと思う。他に意見がないようであれば議論については以上となる。最後に委員会の総意として答申について確認する。会議資料1を答申としたいがいいか。

委員：（異議なし）

委員：実際にどのように進めていくのか、大変なところではあると思うが、進めやすさやどんな工夫をしたのか次年度報告いただけたらよいと思う。

事務局：様々なご意見をいただき、ブラッシュアップされた計画となった。例えばDXが関連する部分は、これを1つ取り組んだからそれで完成というよりも、全体的に取り組んでいかなければなかなか達成できない。今回の第3次の計画は、取り組みを所管課がしっかりと理解できる実行計画となっている。今後、計画の進捗をご報告させていただくので、またご意見をいただきたいと思う。

委員：通常業務と併せてやっていくことになるので、職員に過度の負担とならないようにやっていただきたい。

事務局：皆様からの答申を受け、12月に庁内で調整をしたうえで、1月にパブリックコメントを実施する。その後、庁内で再調整をさせていただき、最終的に3月に計画を策定する。

### 3 閉会

会長： 以上で令和7年度第4回浦安市行政改革推進委員会を閉会する。

(11時20分終了)